

# ドナネマブ、認知症進行抑制

## 東京都健康長寿医療センター 介護負担軽減に効果

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都板橋区）は5月18日、ドナネマブが早期アルツハイマー病の進行リスクを平減させるという解析結果を発表した。

ドナネマブは米イーライリリー社が開発した薬剤で、認知症の発症に影響するアミロイドβを標的とする抗体薬。（2024年薬価

収載）。同センターの医師が試験データをもとにイーライリリー及び米国の医療機関と解析を行った。一定期間の投与によ

り、軽度認知障害（MCI）から軽度アルツハイマー病への進行リスクは33%、軽度から中等度アルツハイマー病への進行リスクは50%低減したことが分かった。また、在宅介護が必要となる状態に至るリスクも27%低下し、家族などの介護負

担軽減につながる可能性があるとされている。

同センターは同じく認知症治療薬であるレカネマブ（エーザイ、23年薬価収載）についても研究を行っている。初期アルツハイマー病患者23人を対象にアミロイド蓄積量を追跡したところ、減少の程度や速度にははらつきが見られた。特に高齢者ほど減少が大きく、速い傾向があった。一方で、一部の患者ではアミロイドが減少し

ても認知機能の低下が確認され、脳血流などを含む多面的な評価の必要性が示唆された。